

アーティストブックリリース

artist's book launch  
2026.3.13

蜷

川

mirror, mirror, mirror  
mika ninagawa

実

ミラー、ミラー、ミラー

exhibition  
2026.3.13

[アーティストブック] 2026年3月13日[金]リリース  
[展覧会] 2026年3月13日[金]—5月31日[日] 11:00-19:00  
DDDART | 下北沢 | 東京都世田谷区代沢4丁目4-12

5.31

花

DDDART

30年近くキャリアを重ねていくなかで、映画やインスタレーション作品など大きなプロジェクトをやる機会も増えてきた。どれも新しい挑戦だし、いつだって熱を入れて作品をつくっているけれど、やっぱり写真が全てのスタート地点であり帰る場所。今日もどこに発表するでもなく、呼吸をするように撮り続けている。大きなプロジェクトをやればやるほど「カメラで世界を切り取る」というシンプルな行為が輝いて見える。改めてそんなことを感じていた時に、この本の話が舞い込んできて、自然とこういう形になっていった。これまでに100冊以上出してきたどの写真集とも違う、私の創作に対するある種の狂気を孕んだエネルギーや「撮らずにはられない」原始的な衝動を詰め込んだ本が完成した。編集者を筆頭に、この本に関わった全員が尋常じゃないエネルギーと愛を注いでくれた超アナログな本。この時代にこの本をつくったのは必然だったと思う。これから担当編集が夜なべして、何千冊も手作業でリボンを結んで仕上げるんですよ。そのエネルギー、今の時代ほかにはないと思う。

————— 蜷川実花

# mirror, mirror, mirror mika ninagawa

蜷川実花、創造の軌跡をたどるアーティストブック『mirror, mirror, mirror mika ninagawa』刊行とともに連動展覧会〈mirror, mirror, mirror mika ninagawa〉展を DDDART にて開催。蜷川ゆかりの地である下北沢において、アーティストブック、オブジェクト、空間表現が交差するひとつのクロスメディア領域が立ち上がります。

mirror, mirror, mirror mika ninagawa プロジェクトは、蜷川実花と共に、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社でアートの生活提案を行うCCCアートラボ、株式会社テレビ朝日、afumi inc. が実施いたします。

## 破壊、再生、また破壊

蜷川実花は、アーティストとして「破壊、再生、また破壊」という循環するテーマを内包しながら、創作活動を展開しています。写真家としてデビューした当初、写真は〈真〉を写すものとする従来の概念を根底から覆し、自身の創造を積極的に投影するメディアとして、写真の新たな可能性を再構築し、作品を発表してきました。そして、かつて自らが打ち立てたその新しい写真の概念さえも解体し、さらに別の表現のあり方を模索しています。近年では、自身で制作した立体モチーフと写真作品のコラージュによって構成される立体作品など、メディアの境界を越えた表現を創造を続けています。

## 4つのプログラム

「破壊、再生、また破壊」をテーマに、多元的領域で創造を続ける蜷川実花の現在を表現すべく、本プロジェクトでは、アーティストブックを起点に、その特装版、展覧会、下北沢の街とのコラボレーションのプログラムを準備しました。

蜷川実花アーティストブック:

『**mirror, mirror, mirror mika ninagawa**』

蜷川実花アーティストブック特装版:

『**mirror, mirror, mirror mika ninagawa**』

蜷川実花展覧会 @ DDDART下北沢:

〈**mirror, mirror, mirror mika ninagawa**〉展

蜷川実花展覧会 連動企画:

下北沢の街とのコラボレーション

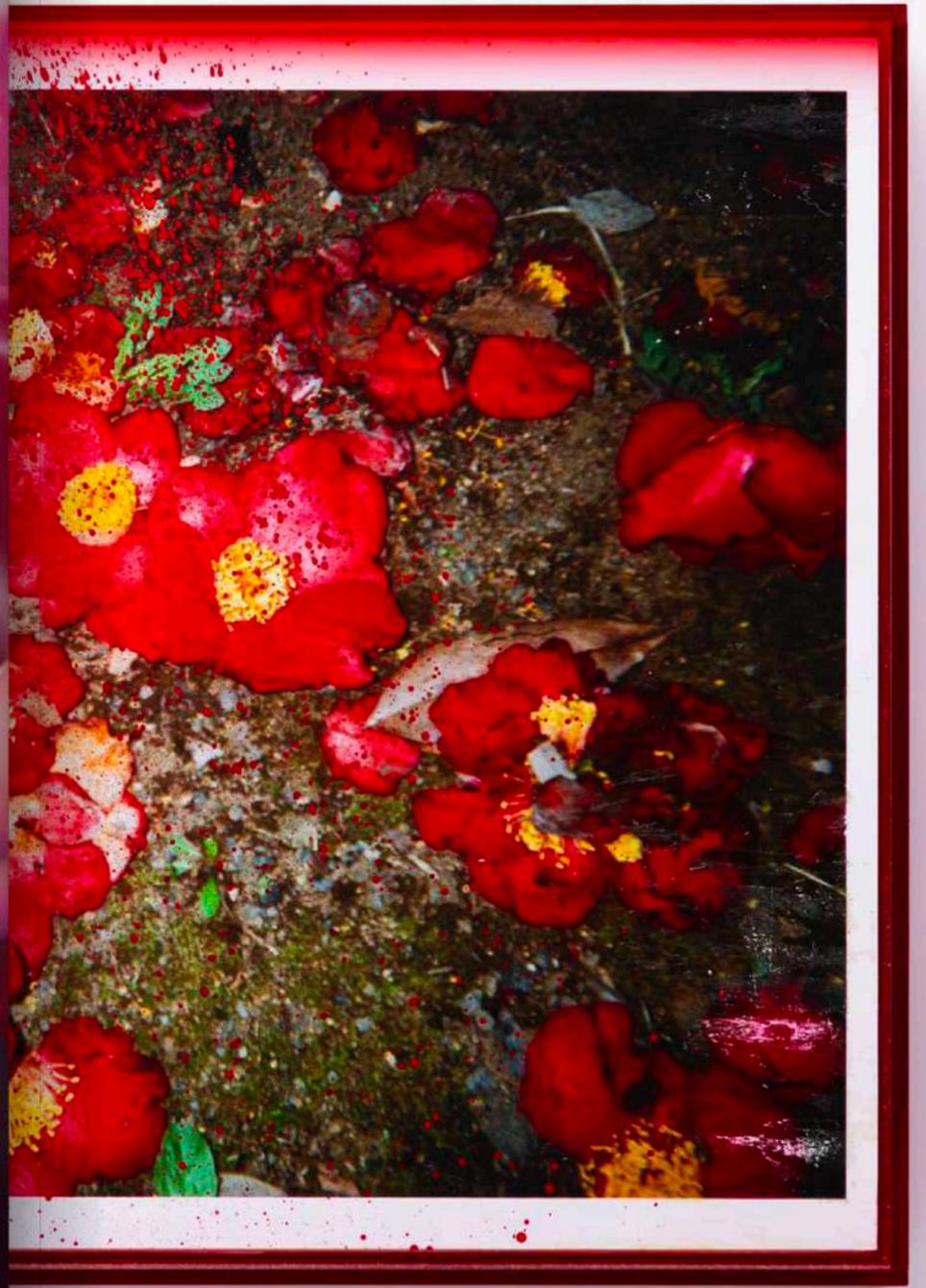
蜷川実花アーティストブック  
mirror, mirror, mirror mika ninagawa

3月13日（金）発売



©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

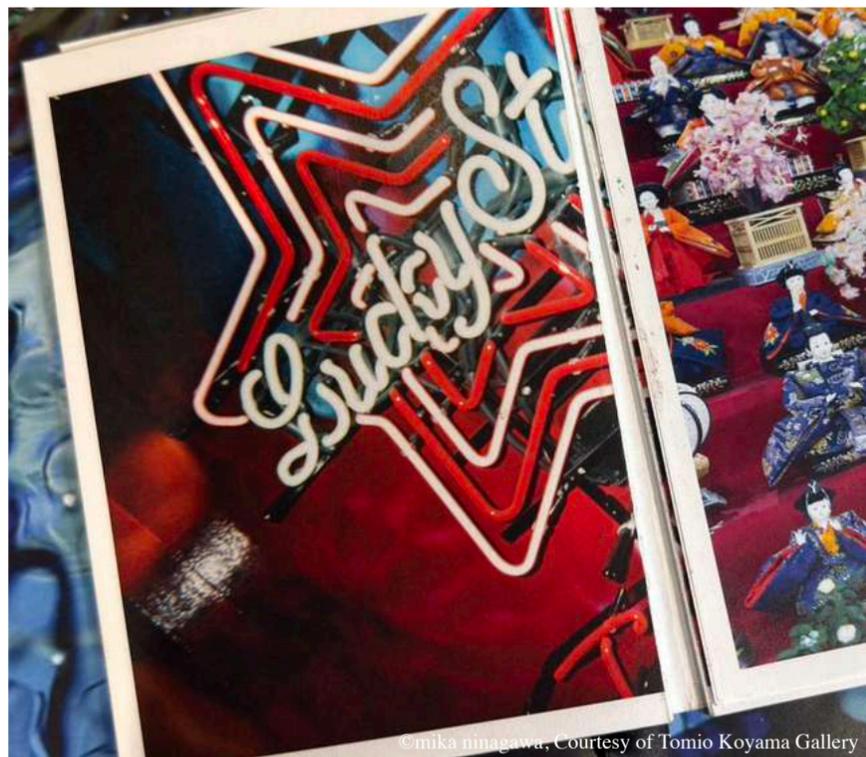
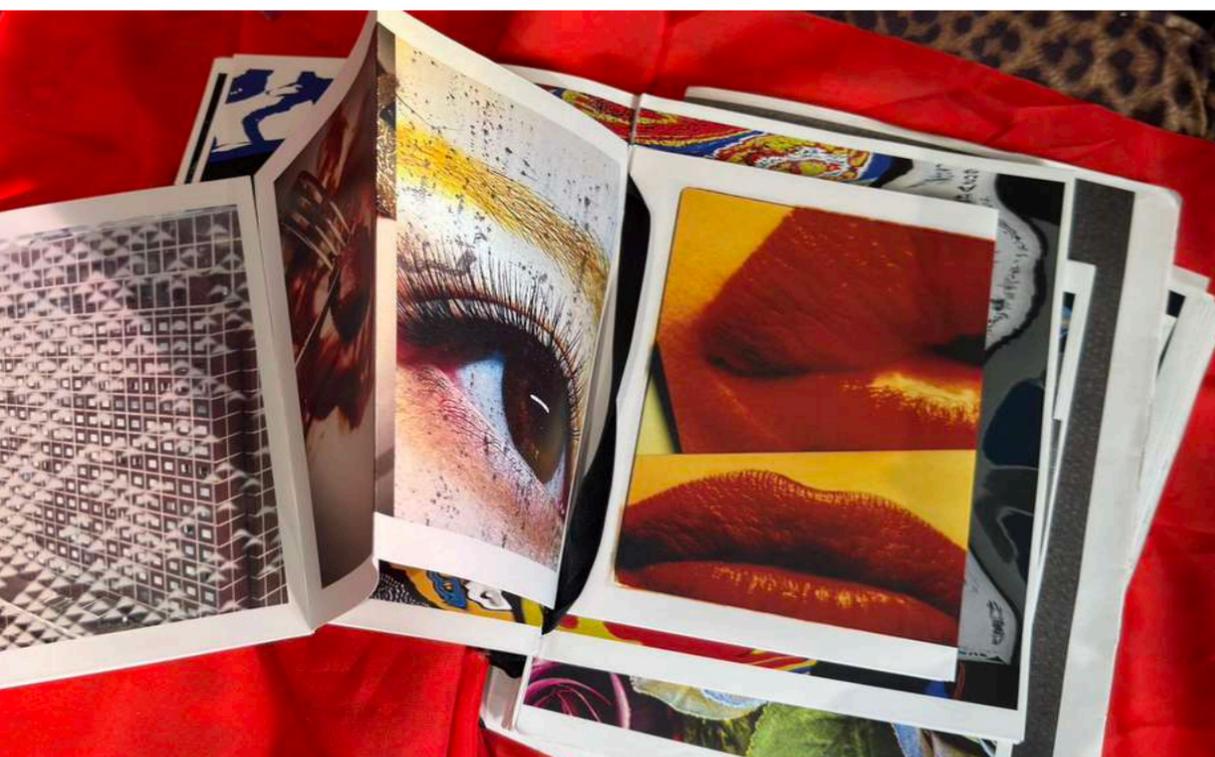
蜷川実花の創作活動の源である「破壊、再生、また破壊」をテーマに、7つの冊子、ポスター、ステッカー、ポストカードなどを風呂敷状の表紙で包んだ、書籍という概念をも〈破壊、再生、また破壊〉した合本となるアーティストブックをリリースします。そこに収められた作品は、デビュー当時のものから未発表作を含む最新作まで多岐にわたり、それらをページネーション、コラージュ、カラーコピーなど、あらゆる手段を用いることで、蜷川作品の破壊と再構築を試み、さらには読者自身が何度でも〈破壊、再生、また破壊〉できる仕様となっています。



©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery



©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery



\*制作中のダミー本によるイメージです. 完成品とは異なります.

タイトル	mirror, mirror, mirror mika ninagawa
発売日	3月13日(金)
定価	10,000円(税抜), 11,000円(税込)
判型とページ	合本, B5 56p., B5 40p., A4 144p. A5 16p. B6 38p., A6 16p. A4 8p., 合計318p.
著者	蜷川実花
ブックデザイン	秋山伸
編集	我孫子裕一 (afumi inc.)
印刷	株式会社山田写真製版所
企画	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 (CCC ART LAB), 株式会社テレビ朝日, 株式会社ラッキースター, afumi inc.
発行	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 (CCC ART LAB)
発売	光村推古書院株式会社

**COMING SOON**

蜷川実花アーティストブック特装版

# mirror, mirror, mirror mika ninagawa

祭壇をイメージした、小型のアクリル製キャビネットの中にアーティストブックを収納した特装版を限定リリースします。キャビネットの内には、今回刊行される書籍をはじめ、蜷川がセレクトした追悼や記憶にまつわるアイテムが収められます。日常の空間に置かれるひとつの私的な祭壇として、記憶と現在、生と死のあいだに静かな回路をひらくオブジェクトです。

展覧会 @ DDDART 下北沢

## mirror, mirror, mirror mika ninagawa

3月13日（金）～5月31日（日）

蜷川実花が、十数年にわたり活動の拠点としてきた下北沢の地において、アーティストブックの刊行を記念した展覧会を開催します。本展は、アーティストブックに結実した表現の軌跡を、展示空間の中であらためて構成する試みです。「破壊、再生、また破壊」という創作テーマのもと、蜷川の表現史と現在の表現が、ひとつの空間として提示されます。

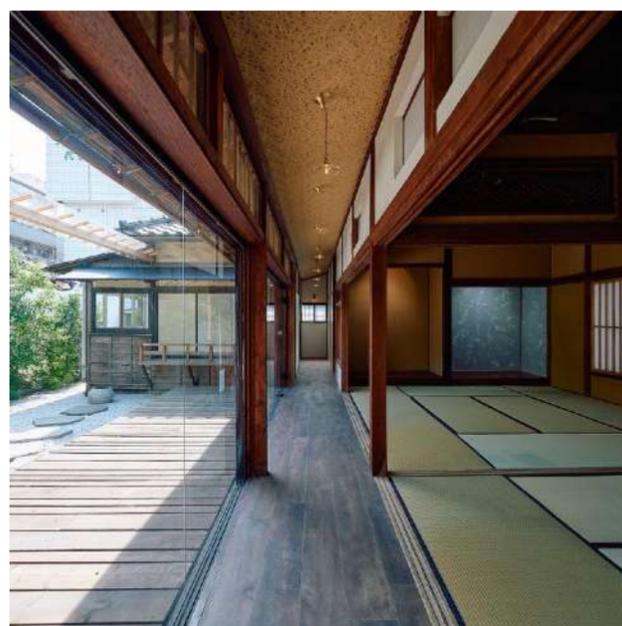
会期	2026年3月13日(金)～5月31日(日) 11:00-19:00
会場	DDDART（東京都世田谷区代沢4-41-12）
入場料	前売券：一般1,100円/大学・専門学校生1,000円/中高生800円/ 未就学児（小学生以下）無料/障がい者手帳をお持ちの方1,000円 当日券：一般1,200円/大学・専門学校生1,100円/中高生800円 未就学児（小学生以下）無料/障がい者手帳をお持ちの方1,100円 上記他、書籍付の券種もご用意がございます。詳細はチケットサイトにて ご確認ください。
アーティスト キュレーター	蜷川実花
企画	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC ART LAB）, 株式会社ラッキースター, 株式会社テレビ朝日, afumi inc.
制作協力	Wonderstock Photo, Tomio Koyama Gallery
チケットサイト	<a href="https://www.asoview.com/channel/tickets/Kk1f2X5Uzh/">https://www.asoview.com/channel/tickets/Kk1f2X5Uzh/</a>
公式サイト	<a href="https://mirrorninagawa.com">https://mirrorninagawa.com</a>
EC サイト	<a href="https://oil.bijutsutecho.com/artbooks/928/1100051641">https://oil.bijutsutecho.com/artbooks/928/1100051641</a>
公式 Instagram	<a href="https://www.instagram.com/mirrorninagawa">https://www.instagram.com/mirrorninagawa</a>
公式 X	<a href="https://x.com/mirrorninagawa">https://x.com/mirrorninagawa</a>
主催	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC ART LAB）, 株式会社テレビ朝日, afumi inc.
協賛	ヴェーヴ・クリコ（MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社）
協力	DDDART

2026.02.26

# DDDART

DDDART は、下北沢というサブカルチャーを代表とする地域の中で、芸術表現や新しい価値観を積極的に発信し、多くの方々へ届ける為に 2022 年に設立しました。古民家を改装して出来た DDDART は庭園や居間などの土着的な要素を含みつつ、現代アートギャラリーという新たな表現の場として変化してきました。若者文化や現代美術の文脈を継承し、世田谷区を始めとして国内のみならず海外を視野に入れた企画やアーティスト発掘に注力しています。下北沢から世界へ向けて文化・芸術を発信していける様、地域を代表とするアートギャラリーとしてこれからも活動していきます。

東京都世田谷区代沢4-41-12



<https://dddart.jp/>

十数年住んでいた下北沢には思い出がある。乳飲み子を抱えながらの日常生活と創作がマーブル状に入り乱れていたし、コロナ禍や家庭内のいろいろな問題を乗り越え、駆け上がった思い出がそこかしこに染みついた街。そんな、他とは違う特別な場所である下北沢で展覧会を開催できることになり、なんだかとても感慨深い。大きな美術館での展示とは違う、手作りで、実験的で、カオスな商業的ではない展示に。十数年過ごしたエネルギーが垣間見える展覧会になっていたらいいなと思っています。

————— 蜷川実花

## 蜷川実花展覧会連動企画 下北沢の街とのコラボレーション

蜷川実花が、写真家としてのみならず映画監督としての挑戦を決意したこと、ふたりの子どもを育てながら日々を過ごしたこと、そして父を見送ったこと——その舞台は、下北沢でした。蜷川にとって下北沢は、特別な名所というよりも、日常を粛々と生きた時間の手触りを感じられる街です。本企画では、そんな下北沢の街を蜷川なりの視点であらためて捉え直し、馴染みの古着店〈異言 - igen tokyo -〉、下北沢のカレーを象徴する〈マジックスパイス〉、ロールケーキやソフトクリームの代名詞〈パティスリー・コウヅ〉、時代のカルチャーを見守る〈ヴィレッジヴァンガード下北沢店〉など、街を形づくる店舗とのコラボレーションも展開します。展覧会とこれら4店舗を巡るスタンプラリーを実施予定です。



2026.02.26

**異言 - igen tokyo -** [https://www.instagram.com/igen\\_tokyo/](https://www.instagram.com/igen_tokyo/)

東京下北沢に店舗を構える〈異言 - igen tokyo -〉。トレンドを見据えた古着に加え、ヴィンテージ、アーカイブ、ラグジュアリー、リメイク等、複数の角度からアイテムを展開します。蜷川実花とのコラボは、蜷川実花をイメージした古着にカスタムを施した限定古着に加え、過去の作品をプリントしたパーカーに異言のリメイクを施したオリジナルアイテムを展開予定。是非、店頭にもお越しください。

「ふらっと入った古着屋の店員さんがあからさまにセンスがよくて。しかも、なんだかうちの長男と雰囲気似ていて声をかけたのが出会いです。それ以来買い物しに行ったり、京都まで展覧会を観に来てくれたりのお付き合いです。今は独立して自分たちのお店をオープンしたんですが、古着のリメイクとかどれも可愛くて好みがあう！ とにかく彼らのセンスでつくったものを私が欲しくて、今回コラボしたいと声をかけました。彼らの目を通して自分の写真を見られることがとても楽しみです」（蜷川）

**パティスリー・コウヅ** <https://patisseriekozu.com/>

下北沢にある、ロールケーキのお店です。生活クラブの国産鶏卵を使い、ふんわり、もちっとした食感にこだわって生地を焼いています。定番と季節限定を合わせて、ロールケーキは常時10種類ほど。木のぬくもりを感じるやさしい店内で、パウンドケーキやクッキー、神津牧場のジャージーソフトクリームもご用意しています。今回は、蜷川実花にインスパイアされたロールケーキとアイスクリームをリリースします。

「当時、すぐ近くに住んでいて、お散歩がてらよく通っていたお店です。ロールケーキも美味しくて大好きですが、もっと好きなのがソフトクリーム。神津牧場のミルクを使用していて、本当に美味しい。息子2人とよく食べていた思い出の味です。私にとって、ソフトクリームは幸せな記憶と結びついているちょっと特別なもので、モチーフとしても好きなんです。今回の本にも、次男がこのソフトクリームを食べている写真が入っているので探してみてください」（蜷川）

**マジックスパイス** <https://www.magicspice.net/>

札幌で誕生し、「スープカレーの元祖」として知られるインドネシア風カレー専門店〈Magic Spice〉。医食同源〜美味しく食べて美しく元気に”をコンセプトに、7段階の辛さと魔訶不思議な世界観で、唯一無二の食体験を提供してきました。音楽、アート、スパイスが交差する“マジスパ空間”は東京・大阪にも広がり、世代やカルチャーを超えて支持されています。今回は蜷川実花が、下北沢店にて大好きであったメニューをアレンジした特別なコラボを実施します。

「下北沢に住んでいた頃よくテイクアウトしていたんです。私は、お酒もあんまり飲まないし、夜遊びもほぼなくて、家にこもってコツコツとひたすら作品をつくり続ける日々を送っています。そんな生活の中でなくてはならなかったのがこのカレーで、今回コラボできて本当に嬉しいです」（蜷川）

**ヴィレッジヴァンガード** <https://www.village-v.co.jp/shop-list/000083/>

名古屋が生んだ奇跡の本屋〈ヴィレッジヴァンガード〉。「遊べる本屋」をキーワードに書籍以外にも多くの雑貨を取り扱い、融合的に陳列販売する複合型書店。今回のコラボレーションでは、蜷川実花関連の書籍やさまざまなアイテムを取り揃えた特設コーナーを設けて、展示を盛り上げていただきます。

「まだ私が若手だった頃から写真集を推してくれたり、ずっとよくしてもらっていたお店で、すごく感謝しています。昔から勝手に『私と相性いい!』と思っていたこともあり、今回下北沢で展示をやるなら、やっぱり一緒にしたいなと思っていたところ実現することができました」（蜷川）

# 蜷川実花



写真家  
映画監督  
現代美術家

写真を中心として、映画、映像、空間インスタレーションも多く手掛ける。クリエイティブチーム「EiM (エイム)」の一員としても活動中。木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。2010年ニューヨークのRizzoliから写真集を出版。また、『ヘルタースケルター』（2012年）、『Diner ダイナー』（2019年）をはじめ長編映画を5作、Netflixオリジナルドラマ『FOLLOWERS』（2020年）を監督。これまでに写真集120冊以上を刊行、個展150回以上、グループ展130回以上と国内外で精力的に作品発表を続ける。個展〈蜷川実花展with EiM：彼岸の光、此岸の影〉（京都市京セラ美術館、2025年1月-3月）は、25万人を動員。最新の写真集に『Eternity in a Moment vol.1-3』（Akio Nagasawa Publishing & Case Publishing、2024年）がある。

主な展覧会:

グループ展 〈I'M SO HAPPY YOU ARE HERE〉 Palais de l'Archevêché、2024年  
グループ展 〈Tokyo : Art & Photography〉 アシュモレアン博物館、2021年-2022年  
〈MIKA NINAGAWA INTO FICTION / REALITY〉 北京時代美術館、2022年  
〈蜷川実花展〉 台北現代美術館 (MOCA Taipei) 2016年

<https://mikaninagawa.com/>

## PRESS CONTACT

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 (CCC ART LAB)

広報担当

MAIL : [cccal.dm@ccc.co.jp](mailto:cccal.dm@ccc.co.jp)

afumi inc.

佐藤ビンゴ

TEL : [03-6451-1568](tel:03-6451-1568),

MAIL : [info@afumi.co.jp](mailto:info@afumi.co.jp)